

せんべいしゃ
金幣社

白山神社由緒

祭神

菊理媛命

伊弉諾命

伊弉冉命

くくりひめのみこと

いざなぎのみこと

いざなみのみこと

大富の地はその昔高田勅使田と言われ、朝廷直轄の地であった。美濃国神名帳によれば、この地の守護神として高田明神が祭られていたとある。

たかだてしでん

清和源氏の直系である土岐頼貞は地頭守護の任を受け、この神社の近くの大富館に住まいし、この近在を統治したが、一族の氏神として高田明神を厚く信仰した。その後、その子孫も代々手厚く祭祀したが、この長い歴史をもつ由緒ある古社も、戦乱の時代天正二年（一五七四）に武田勝頼一族により焼失させられた。

現白山神社は、江戸時代、貞享三年（一六八六）

かがしらやまひめ

かんじょう

に加賀白山比咩神社の祭神を勧請し、現在地に造営された。その後、神仏習合により玉林山竜泉寺が併設され、享保五年（一七二〇）には大鳥居も建設され、諸願成就、縁結びの神として村人の崇敬心が益々高まっていた。

現在の白山神社社殿は、昭和五年に改築されたものであるが、その後、大富区内に奉祭され

ひのみこ

ていた稻荷神社、日神子神社なども境内社として合祀され、現在に至っている。又、昭和三八年には結婚式場神泉殿が併設され、四一年にはその由緒・崇敬により金幣社に昇格し、その偉容を誇っている。

岐阜県土岐市泉町大富地区